

# 令和3年度 廿日市市立廿日市小学校研究推進計画

## 1 研究主題

自分の考えを表現し、学びを深め合う児童の育成

～ユニバーサル・デザインの考え方を生かした授業づくりを通して～

## 2 研究主題設定の理由

本校では、「ともに学び ともに伸びる」という学校教育目標を掲げ、付けたい資質・能力を「思考力・表現力、主体性、自己有用感」として研究を進めている。とりわけ算数科の授業において、児童全員が「わかった」「できた」と実感する授業を実現するために、ユニバーサルデザインの考え方を生かしながら、児童の実態把握をもとに支援方法を考え、「焦点化・視覚化・共有化」を意識した授業づくりを進めている。

昨年度は、副題を「自分の考えを伝えるための表現力の育成」として、「廿小表現力育成モデル」を作成し、自分の考えを表現する力を育成することとした。

4月に、アセスメントとして、前学年までの「数と計算」の領域のテストを実施し、個々のつまづきを把握し、学年会や学年研修で共有し具体的な手立てや授業の組み立てを考えた。さらに、週2回のドリルタイムを活用し、個々のつまづきを解消することとした。

その結果、算数科の児童アンケートにおいて、「算数の授業が分かります」という問いに対して、肯定的な回答をした児童が6月、10月ともに94%だった。2月では、96%と2%増えた。さらに、「自分の考えを、相手が分かるような根拠をつけて(図・表・ことば・式を使って)説明しています。(書く・話す)」という問いに対して、肯定的な回答をした児童が6月は80%、10月は88%、2月は88%と6月と比べると増えている。しかしながら、「自分の考えを説明したり、友達の考えに対して意見を言ったりして、自分の考えがさらによくなったり、考えが変わったりすることがあります。」という問いに対しては、6月、10月ともに88%と変化がなかった。これらの結果から、自分の考えを説明したり、友達の考えに対して意見を言ったりして、自分の考えがさらによくなったり、考えが変わったりすると実感している児童が少ないと考える。

そこで、本年度は、研究主題を「自分の考えを表現し、学びを深め合う児童の育成」とし、副題を「ユニバーサルデザインの考え方を生かした授業づくりを通して」と設定した。算数科の授業において「自分の考えを表現する」「深め合う」の2点に重点を置くことにした。そして、ユニバーサルデザインの考え方を生かした「焦点化・視覚化・共有化」を意識した授業づくりをもとに、みんなが学ぶ喜びを味わうことができるような教材のしかけを行い授業展開を考え、授業の最後で、「この45分間で自分の考えがどのように変容したのか(高まったか)」を意識させるようにすることとした。

学級経営において、日常的に「共有化」を可能にする温かな学級、お互いの考えを認め合う受容的な学級の雰囲気を醸成し、自分の考えを相手に伝わるように説明する力、お互いの考えを共有したり、深めたりするために話し合う力の育成に取り組むことで、「分かった」「できた」と実感できる授業を創造することができると考える。

## 3 研究仮説

算数科の授業において、「表現力育成モデル」を活用し、目指す具体的な子どもの姿を明確にすれば、思考力表現力が育成できるだろう。

その際、次のような手立てを行う

- ① 各学年に合った表現力育成モデルを作成する
- ② 教師・児童に両者に目指す子どもの姿を示し、共有する。

③ 振り返りを行い、評価する。

## 4 研究の視点

研究主題の推進にあたっては、特に、次の視点で取り組むこととする。

### (1) 児童の実態把握(アセスメント)

4・5月に児童全員を対象に、クラス全体の実態把握を行う。

・学ぶ意欲を高めるための工夫(教材のしかけ)

※課題提示・授業展開の工夫→「楽しい」を感じることができるのか。

・つまずきのある児童に具体的で適切な支援方法を考える。(個別支援)

※適切な支援→「できた」「わかった」を感じることができるか。

### (2) 学級環境を整える

ア. 場の構造化・・・時間と場所の構造化を図る

イ. ルールの明確化・・・学習の基本ルールを徹底する

ウ. クラス内の相互理解の工夫・・・助け合ったり、協力したりする場面を意図的に設定する

お互いを認め合う受容的な学級づくりをする

### (3) 「焦点化・視覚化・共有化」を意識した授業

#### ① 焦点化

授業のねらいを1つに絞り込んだり、教材にしかけをして児童の関心・意欲を高め、児童の思考の流れに沿って活動をシンプルに構成したりする等、学習内容と活動を焦点化する。

#### ② 視覚化

文章理解や聴覚情報の理解に困難さがあることを想定し、板書の構造化や提示の工夫、ICTの活用など効果的な視覚化を行う。

#### ③ 共有化

ペアやグループなど、話し合い活動を充実させるために、自分の考えを持たせたり、表現の仕方や話し合い方を身に付けさせたりする。また、日常的にお互いを認め合う受容的で温かな学級の雰囲気を醸成する。

(4) 思考力表現力を意識した授業

1年生	具体的な姿	児童の発言・反応
目指す子ども像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・となりの人に安心して話す。</li> <li>・理由をつけて表現する。</li> <li>・となりの人の話をきちんと聞く。 (共通点や相違点に気付く)</li> <li>・身近な人やものと関わりながら、自分の考えをもつことができる。</li> <li>・学級のみなどと伝え合う。みんなで聞き合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・となりの人と進んで話をしている。 「わたしは〇〇だと思うよ。」 「あなたは どう思う？」 「どうやって考えたの？」</li> <li>・相手の話を聞いて反応している。 「うんうん。」「なるほど。」 「一緒だね。少し違うね。」 「〇〇さんと話して考えがこんなふうにかわったよ。」</li> <li>・学級のみなどに抵抗なく伝えている。 「〇〇さんはこうやって考えたんだね。」 「わたしの考えもみんなに伝えたい。」 「いろいろな考えがあるね。」</li> </ul>

2年生	具体的な姿	児童の発言・反応
目指す子ども像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・となりの人に安心して話したり、となりの人の話をきちんと聞いたりすることができる。</li> <li>※ペアトークで 分かったこと } 分からないこと } を伝える 同じこと } 違うこと } ↓ 同じ人 } 挙手 違う人 }</li> <li>・意見に対して反応する。 (質問をする)</li> </ul>	<p>「同じです。」 「分かりました。」 「ちがう意見もあります。」 「〇〇がわかりません。」</p> <p>「分かりました。」 相づちをさせる 「なるほど。」 「ああ。」 「うん。うん。」 「どういう意味？」 「いいね。」</p>

3年生	具体的な姿	児童の発言・反応
目指す子ども像	<p>・意見をきいて 【比較】 ※同じ（似ている） ※ちがう ※分からない ・その結果をうけて 【分類・整理】</p> <p>ペア グループ 全体 } で、理由を示して自分の意見を伝える。</p> <p>伝えられた意見をきいて、自分の考えを加筆修正、確認をする。</p> <p>ペア グループ 全体 まとめ ふりかえり } 等で、自分の考えを表現する。 (書く・話す)</p>	<p>「同じだ」 「自分の考え方とは違うな」</p> <p>「〇〇と●●は同じにできないかな」 「この考え方には、●●と名前をつけると分かりやすいよ」</p> <p>「これは、算数言葉を使って言えるかな？」</p> <p>「〇〇くんの〇〇〇の（算数言葉）を使っているのがよかったね」</p>

4年生	具体的な姿	児童の発言・反応
目指す子ども像	<p>・主体的に問題に取り組む。</p> <p>・様々な情報を比較・分類し整理しながら考えることができる。</p> <p>・理由を明確にしたり、友達の見解を取り入れたりしながら、他者に分かりやすく表現することができる。</p>	<p>「なぜだろう」 「今までの学習は使えるかな」 「どうやってやるのだろう」 ・大切な数や言葉は何か？ 「〇〇さんのような考え方もあるんだ。」 「なるほど」 「分かるよ」 「どうやって考えたのかな」 「ほかの考え方もあるんだな」 「〇〇と●●は似ているな」 「この考えは私と同じだな」 「〇〇さんの考えと〇〇さんの考えも似ているな」 「図を使って考えたよ」 「どうしてこの式になったの？」 「〇〇さんの考え方を聞いて、同じように図（表）を使って考えたよ。」</p>

5・6 年生	具体的な姿	児童の発言・反応
目指す子ども像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな情報を比較・分類・関連付けて考える。</li> <li>・整理しながら聞く。</li> <li>・班の中や学級全体で発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。</li> <li>・友だちの考えを聞いて、比較修正し、よりよい考え方を伝える。</li> </ul>	<p>「〇さんと〇さんの考え方は似ているね」  「〇さんと〇さんの考え方は違うね」  「〇さんと〇さんの考え方は同じ仲間分けになるね」  「なるほど」  「そう考えたんだね」  「わたしの考え方は違うな」</p> <p>「〇〇と考えたよ。理由は、・・・からだよ。」  「どうして？」  「なぜ？」  「〇さんと〇さんの考えを合わせたらいいね」</p> <p>「〇さんの考えをきいて、自分の考えが整理されてすっきりしたな」  「〇〇さんの考えをきいて、そんな方法で解くことを知ったよ」  「いろいろな方法で考えることがわかってうれしい」</p>

## 5 研究の方法と検証

### (1) 理論研修

- ① ユニバーサルデザインの授業について、全体での理論研修を行う。
- ② 研究推進は、毎月1回の研究部で行う。

### (2) 研究授業の実施

#### ① 全体研修

算数科授業研究については年間4回の授業研修を通して、全体で校内研修を進める。各自の授業研究については、年間1回以上の学年研修で授業研究を行う。その中の一部をブロック研修にする。

ア. 研修内容の視点に沿った研究授業を実施し、研修を深め、研究の有効性を検証していく。

イ. 授業研究の事前研修は、学年で行う。

ウ. 指導案検討会は、全体で行う。(学年研修以外)

#### ② 学年研修

ア. 各学年で1回以上、学年間で互いの授業を見合って研究の視点に沿って授業研究し、授業力の向上を図る。

イ. 「UDの考え方を生かした授業づくりチェックシート」「各学年の表現力育成モデル」「表現力育成チェックシート(算数アンケート)」を活用して、学年研修を行う。

### (3) ユニバーサル・デザインの視点を取り入れた授業が行われ、児童が主体的に学び、考えを深め表現する

ことで、児童が「わかった」・「できた」・「楽しい」を実感しているかを検証する。

① アセスメントをもとに、個々に応じて工夫した支援は有効であったかを検証する。

・A児（90%以上）に対しての手立て

・C児（30%以下）に対しての手立て

② ドリルタイムの実施によって、60%未満の学力を重点的に向上させる。

③ 表現力の育成を意識した授業になっていたか、検証する。

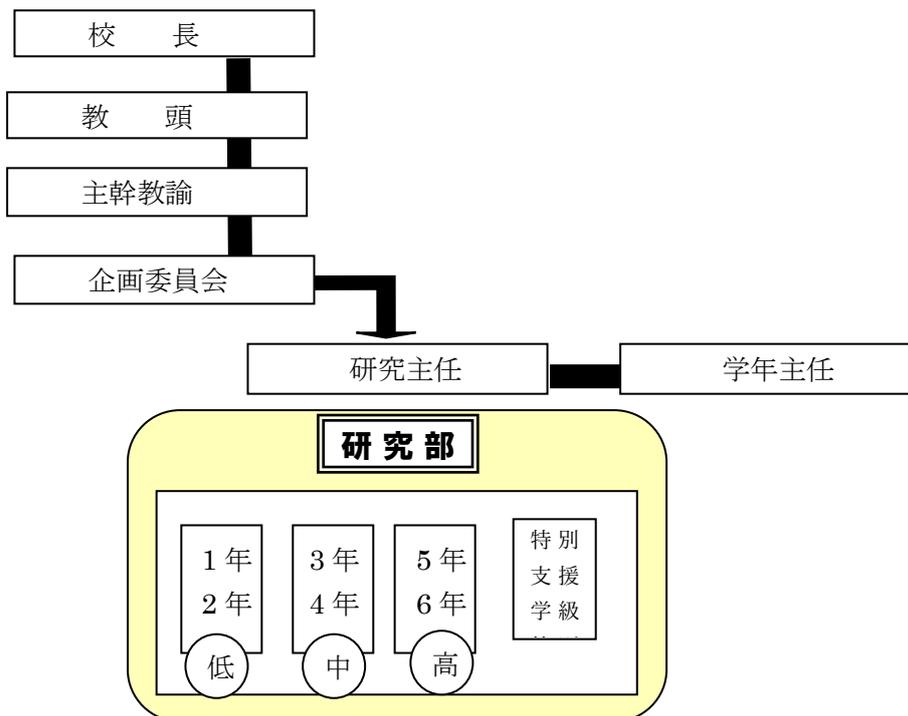
○算数アンケート（児童対象 4月、7月、12月）（肯定的な回答9割以上）

○廿日市市学力定着状況調査（活用）を分析し、児童の変容を見る。

（60%未満の児童の割合の減少）

○学年研修で見る。（算数アンケートを活用する）

## 6 研究組織図



## 7 研修計画

### (1) 全体研修

日時	内容	備考
4月5日(月) 15:00~	3校合同研修(理論) ユニバーサル・デザインの考え方を生かした授業づくり	講師:廿日市市教育委員会 山田特別支援アドバイザー
4月6日(火)	校内研修(理論) 「研究推進計画」について	
4月8日~ 30日	学級経営スタート月間 ※学級の環境を整える, ルールの徹底	
4月上旬	1年生のアセスメント	講師:山田特別支援アドバイザー

6月2日～ 6月3日	児童実態把握(アセスメント)	講師:山田特別支援アドバイザー
6月29日(火)	校内研修(授業) 授業研究①:算数( )	講師:山田特別支援アドバイザー
7月下旬	校内研修(理論) 「個別の児童のつまずきの分析の仕方と支援の在り方」	
8月上旬	・1学期の学年研修について報告 ・2学期の学年研修について計画 ・アンケート分析	
8月上旬	・通級指導教室の実態把握 ・ICT教育に係る研修	
8月下旬	全国学力・学習状況調査分析 公開研究会指導案検討	
10月12日(火)	校内研修(授業) 授業研究②:算数( )	講師:山田特別支援アドバイザー
11月11日(月)	校内研修(授業) 授業研究③:算数( )	講師:山田特別支援アドバイザー
12月下旬	・2学期の学年研修について報告 ・3学期の学年研修について計画 ・アンケート分析	
1月18日(火)	校内研修(授業) 授業研究④:算数( )	講師:山田特別支援アドバイザー
2月下旬	廿日市市標準学力調査の分析 研究のまとめについて	

※学年研修が随時入ります。

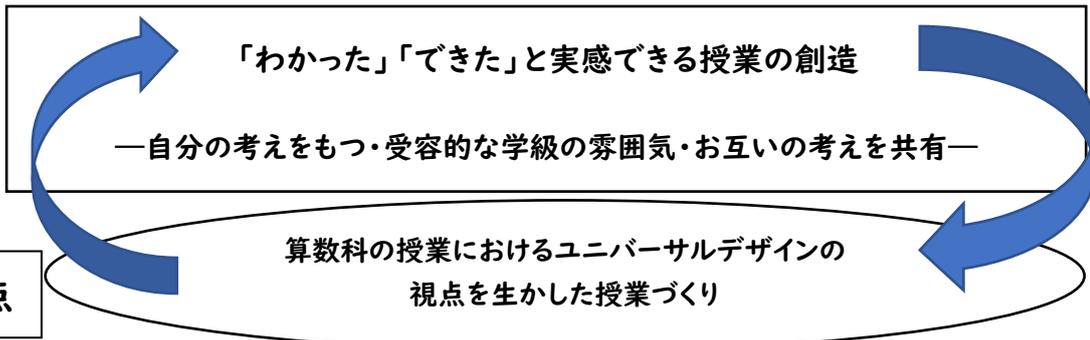
学校教育目標

# ともに学び ともに伸びる

自分の考えを表現し、学びを深め合う児童の育成

—ユニバーサル・デザインの考え方を生かした授業づくり—

## 【研究課程】



## 研究の視点

### (1) 児童の実態把握 (アセスメント)

- ① 4, 5月に児童全員を対象に、クラス全体の実態把握を行う。
- ・つまずきのある児童に具体的で適切な支援方法を考える。(個別支援)

適切な支援「できた」「わかった」を感じることができるか。

- ・学ぶ意欲を高めるための工夫 (教材のしかけ)

課題の提示, 授業展開の工夫 → 「楽しい」を感じることができるか。

### (2) 学習環境を整える

- ア 場の構造化
- イ ルールの明確化
- ウ クラス内の相互理解の工夫

### (3) 「焦点化・視覚化・共有化」意識した授業

### (4) 思考力表現力を意識した授業

※各学年の児童の実態に合わせた、表現力育成モデルを活用

## 【研究仮説】

算数科の授業において、「表現力育成モデル」を活用し、目指す具体的な子どもの姿を明確にすれば、思考力表現力が育成できるだろう。

その際、次のような手立てを行う。

- ① 各学年に合った表現力育成モデルを作成する。
- ② 教師・児童に両者に目指す子どもの姿を示し、共有する。
- ③ 振り返りを行い、評価する。

## 【児童の実態より課題】(算数表現力アンケートの結果より)

自分の考えを説明したり、友達の考えに対して意見を言ったりして、自分の考えがさらによくなったり、考えが変わったりと実感している児童が少ない。